

第 7 章

水 産 業

第 7 章 水 産 業

概況

大阪府の漁業は、瀬戸内海に属する大阪湾の東半分を主要漁場とし、主として内湾性の魚介類を漁獲対象として営まれる沿岸漁業である。

大阪湾は淀川、大和川をはじめ、多くの河川が流入し、飼料生物は豊富で、瀬戸内海の中でも上位にランクされる生産性の高い漁場となっている。また、南北に連なる海岸線は、府内9市3町にまたがっている。

主な漁獲物は魚類で、平成14年までは「いわし類」「このしろ」が中心であったが、平成15年には「まあじ」の漁獲量が増え「いわし類」「まあじ」「このしろ」が中心となり、次いで「いかなご」「すずき類」、その他は、「えび類」「しゃこ」「たこ類」となっている。

また、漁港は平成15年3月末現在で12港、そのうち第1種が10港、第2種が2港となっている。

海面漁業経営体・使用漁船数

平成15年11月1日現在で実施した2003年漁業センサスによると、府内における海面漁業経営体数は712経営体で、これを市町別にみると、岬町が140経営体で最も多く、次いで岸和田市が96経営体、泉佐野市が91経営体、阪南市が85経営体となっている。

また、経営組織別にみると、個人経営体が685経営体で、全体の96.2%を占めており、以下、共同経営が26経営体(構成比3.7%)、漁業生産組合が1経営体(同0.1%)となっている。

経営体が調査期日前1年間に使用し、調査日現在も保有している漁船の総隻数は1054隻で、その内訳をみると、動力船が919隻(構成比87.1%)、船外機付船が133隻(同12.6%)となっている。

動力船についてトン数規模別にみると、「5～10t」が463隻(構成比50.4%)と最も多く、次いで、「1～3t」が250隻(同27.2%)、「3～5t」が146隻(同15.9%)、「10t以上」が44隻(同4.8%)の順となっている。

海面漁業漁獲量

平成15年の総漁獲量は1万5303tで、これを市町別にみると、岸和田市が1万223t(構成比66.8%)と最も多く、次いで泉佐野市が1383t(同9.0%)、岬町が1105t(同7.2%)となっており、この2市1町で全体の83.1%を占めている。

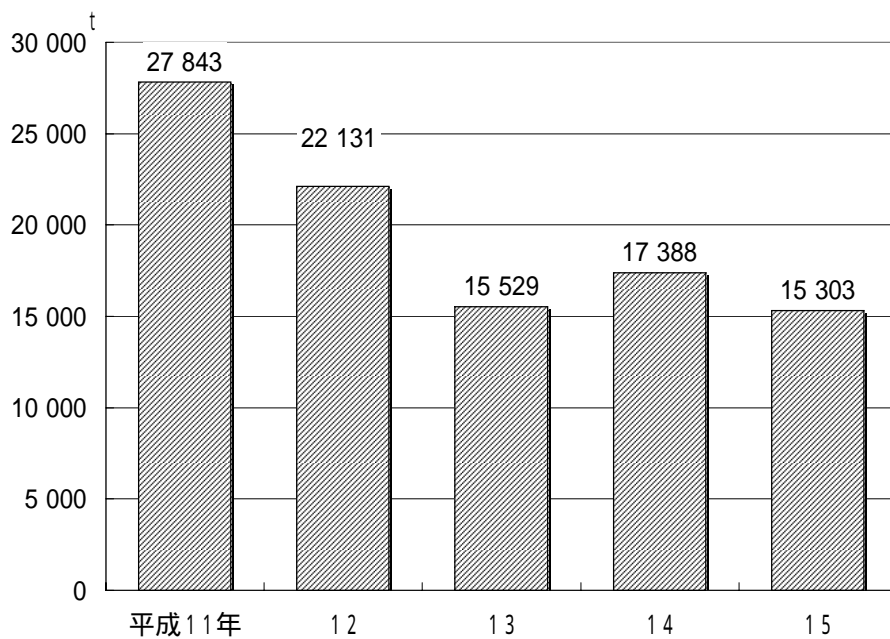
また、漁業種類別にみると、2そうまき巾着網が8365t(構成比54.7%)、ひき回し船びき網4087t(同26.7%)、小型底びき網1603t(同10.5%)の順となっており、この3漁業で全体の91.8%を占めている。

魚種別では魚類が1万4482t(構成比94.6%)と漁獲量のほとんどを占めており、以下、えび類210t(同1.4%)、その他の水産動物(「しゃこ」)203t(同1.3%)の順となっている。魚類のうち「いわし類」が8233tで最も多く、全漁獲量の56.8%と過半数を占め、次いで「まあじ」が2000t(同13.0%)、「このしろ」が1393t(同9.1%)となっている。

内水面漁業漁獲量

平成15年の内水面漁業漁獲量は26tで、魚種別では、「さけ・ます類」が24t、「あゆ」が1tとなっている。

海面漁業漁獲量の推移



市町別、海面漁業漁獲量の割合（平成15年）

